



## 未来永劫なる子供たちのために

校長 松藤 朋治

世界中で、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう事態となってしまいました。一日でも早く誰もが安心して健康な生活を送ることができるようになることを、願うばかりです。緊急のことではありますが、的確な情報をもとに冷静に判断し、落ち着いて行動していきましょう。とりわけ、小学校の校務を司る立場としては、未来永劫なる子供たちを何があっても守っていきたいと考えております。詳しくは、具体的対応を盛り込んだプリントを別途配布しておりますので、お読みになりご協力いただきますようお願いいたします。

卒業証書授与式も、6年生児童と本校教職員のみで行わざるを得なくなってしまいました。卒業生の保護者をはじめ地域の皆様にとりましても子供たちの門出を祝う大事な式であり、心情をお察しいたします。教職員一同、心のこもった式となるよう努めて参ります。国を挙げての感染拡大防止策ですので、ご理解ご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

そんな中ではありますが、6年生、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませぬ。私は6年生とは2年間のお付き合いになりますが、1組と2組のどちらの教室にも“わたあめみたい”なムードが漂っているのを感じます。ほんわかしたというか安らぎがあるというか、本当に素敵な雰囲気では私はこの空気感が大好きです。いつしか、この雰囲気がどこからくるのだろうかと考えようになっていましたが、先日行われた6年生主催の「ありがとうの会」を見て、その理由がわかりました。この会は子供たちが企画したもので、6年間の学校生活で思い出に残ったことやお世話になった方々への感謝の気持ちを様々なパフォーマンスで表現していました。時には保護者の笑いを誘ったり、クイズ形式で保護者にも参加していただいたりと、企画性に富んでいました。いつもと変わらない教室の雰囲気を、そのまま届けているようでした。クライマックスでは、子供たちが保護者へ向けて書いたメッセージも紹介されました。そのとき、会場いっばいに満ち溢れたなんとも言えない「涙色」が私の眼に入り込んできました。おそらく、保護者の皆様が12年間愛情たっぷりに育ててこられたがゆえの色でしょう。親心としては、我が子の成長した姿を見るとき、ご自身がどのように我が子と向き合ってきたかという過去と重ね合わせて見てしまうものです。我が子の活躍を手放して喜んだこともあったことでしょうか、他人には言えない苦悩もあったことでしょうか。おそらく、そういったことを想起しての素敵な「涙色」だったに違いありません。子供たちはたくさんの愛情を注がれて育ててきたのだということが、よくわかりました。

「なるほど、これだ。愛情をたっぷり受けて育ててきたおかげで、わたあめみたいなムードができてきているのか。」と、私なりに前述の答えが見えてきました。愛情あるところに、子供の自己有用感が芽生え、健やかな成長へと発展します。ぜひ、これからも愛情たっぷりに子供たちを育てていかれることを願ってやみませぬ。ご卒業、本当におめでとうございませぬ。



▲「ありがとうの会」の様子。